



ひばり

<http://www.meguro.ed.jp/meguro3j/>
mail meguro-3j@meguro.ed.jp

目黒区立第三中学校

学校だより NO. 7
(通巻 65)

平成 23 年 (2011)
7 月 20 日 (水)

『“がんばろう 日本” 節電 アクション月間』

校長 飯野 博史

連日の猛暑の中、「なでしこジャパン」の活躍に胸を熱くした方も多かったと思います。今日20日（水）で前期前半が終わり、35日間の夏休みが始まります。気を緩めることなく、規則正しい生活に心がけるようご家庭でもご指導お願いいたします。

節電について改めてお知らせいたします。東京都教育委員会では7月から9月までを「“がんばろう 日本” 節電 アクション月間」としました。本校でも朝礼で2回にわたって節電について話をし、節電に取り組んできました。夏休みに向けて生徒には「節電チェックシート」を配布しました。夏休みは家庭で過ごす時間が多いことから「冷蔵庫のドアを開ける時間を短くする」「1日にテレビを見る時間を短くする」など主に家庭で取り組む節電10項目についてチェックすることになっています。ぜひご家庭でも目をおし、無理のない範囲で節電に取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、早起きして涼しいうちに勉強する、夜は早く寝る、暑い時間にシャワーを浴びるなど今までの生活を見直し、工夫する機会としてほしいと思います。

8月25日、日焼けした元気な笑顔に会えるのを楽しみにしています。

自然宿泊体験教室を終えて

副校長 武藤 了

三泊四日の自然宿泊体験教室が生徒にとって長かったか短かったかはその生徒の取り組みの仕方によってかわるものです。今回の八ヶ岳での自然宿泊体験教室は生徒一人一人にとって、あっという間に終わってしまったくらい充実したものになったと感じました。

実行委員を中心とした取り組み、係活動、それぞれが自分の仕事に対する責任をしっかりと自覚した活動でした。校外活動は、普段とは違った自然と接しながらの体験でしたが、目的意識を持ち、確かな集団行動が取れました。宿舎内でも食事やキャンプファイヤー等は楽しく、学活や係活動は集中し、教員等が指示をするときには、話を目で聞いていました。けじめのついた良い取り組みをしていることがわかりました。就寝時間をすぎても普通なら騒がしいものですが、本当に静かに寝ようとしている様子がうかがえました。そんな生徒の一所懸命な姿に天も味方してくれたのでしょうか。毎日汗が出るほど昼間は晴天が続きました。逆に夜は大雨が降ったり、ふとんをかけなければ寒いくらいでした。無事学校に帰校したときに大きく体調を崩すことなく、全員が笑顔でいました。

今回、生徒自身も頑張りましたが、それ以上に周りから多くの親切と思いやりをもらいました。宿舎の方々、体験先の方々、看護師さん、介助員さん、バスの運転手さん・ガイドさん、そして・・・保護者の皆さん。

多くの貴重な体験と多くの思いやりに触れて、第1学年はまた大きく成長してくれます。とても楽しみです。

◎生徒の活躍

- ・第3位 女子バスケットボール部 区夏季大会（7/3）
- ・優勝 三中・四中合同野球チーム 第二支部（目黒・新宿・渋谷）大会（7/3）
都大会出場決定
試合日程 7月23日（土）1時30分 上井草スポーツセンター野球場
- ・優秀賞 目黒区平和祈念標語 1年女子
「幸せの花を みんなで育てれば 喜びも悲しみもわかしあえる」
- ・区平和祈念小・中学生派遣事業参加 3年女子2名
（目黒区平和特派員として広島市で行われる平和記念式典に参加します。）

◎夏休みの予定

- ・東京都吹奏楽コンクール 8月7日（日）10時出演予定 府中の森芸術劇場

いろいろな行事がありました。

○F組音楽療法（7/13）

昭和音楽大学の協力を得て音楽療法を実施しています。楽器の演奏をとおして自分の思いを表現しました。定期的に行っています。



○1年人権教室（7/13）

人権擁護委員の高野先生をお招きし、人権についてお話をうかがいました。アニメ「風の旅人」という人権ビデオを見ました。人権について考えました。



○2年「社会を明るくする運動」対話集会（7/15）

保護司の方10名が来ていただきました。ビデオ「二つの道」を見て、犯罪のない明るい社会について話し合いました。



○3年福祉体験（7/14）

高齢者施設、障害者施設、乳幼児施設、10か所の事業所をお願いして実施しました。



【受け入れていただいた事業所】

目黒本町福祉工房、下目黒福祉工房、田道保育園

不動保育園、東山保育園、上目黒保育園

特別養護老人ホーム東ヶ丘、特別養護老人ホーム東山

中目黒高齢者在宅サービスセンター

田道高齢者在宅サービスセンター ※ありがとうございました。

《新学習指導要領全面実施に向けて③》 言語活動の充実（その2）

「『言語技術』が日本のサッカーを変える」（田嶋幸三著：光文社新書）の中には、日本のサッカーが今後、世界と互角に勝負するためには、体力や身体技術と同じくらい、考える能力、筋道を整理する論理力、ことばによる表現力といった「知的な力」が必要になること、そしてこうした「知的な力」を幼いうちから身体能力や技術力とともに育てていく教育カリキュラムが必要であることが述べられています。つまり、サッカーを支えるものとして思考力、判断力、表現力等を育てる必要がある、そのために幼少時からの「言語活動」を充実させることが必要であると述べているのです。（次号に続く）

